

平成26年度 大学連携講座(全4回) 報告

【第1回】10/25(土)

「女性の活躍と日本の未来」

講師：福士千恵子さん(読売新聞東京本社取締役メディア局長)



私が読売新聞に入社した当時(1983年)は、女性採用はたった3人でした。今では4割を女性が占めています。1985年の男女雇用機会均等法の制定によって女性の社会進出に対する取り組みが積極的になりました。2014年6月、政府は女性活躍推進のため、「①男性の意識改革、②思い切ったポジティブアクション、③公務員から率先して取り組む」を3本の柱に掲げ、「働くまでしこ大作戦」を発表し女性活用を明確に打ち出しています。(参加者：54人)



2014年6月、政府は女性活躍推進のため、「①男性の意識改革、②思い切ったポジティブアクション、③公務員から率先して取り組む」を3本の柱に掲げ、「働くまでしこ大作戦」を発表し女性活用を明確に打ち出しています。(参加者：54人)

【第2回】11/16(日)

「繭と生糸とかかあ天下～群馬の女性の昔と今」

講師：宮崎俊弥さん(共愛学園前橋国際大学 地域共生研究センター顧問) 大森昭生さん(共愛学園前橋国際大学 副学長 教授 地域共生研究センター長)



「かかあ天下」には、2つの意味合いがあります。①女房がしっかりして働いて ②女房が強く旦那を尻の下に敷いている。一般的には②とされていますが、養蚕・製糸・織物の発展を考えれば①と考えられます。養蚕の仕事は大変でした。絹産業の歴史には女性の活躍、努力があったのです。そして現在、「かかあ天下」を取り巻く環境はどうなっているのでしょうか。国内男女平等指数、給与格差などのデータから分析すると、群馬県の男女共同参画はまだ進んでいるとは言えません。固定的な性別役割分担意識を見直すこと、ワークライフバランスをしっかりと保つことが必要です。(参加者：44人)



「かかあ天下」には、2つの意味合いがあります。①女房がしっかりして働いて ②女房が強く旦那を尻の下に敷いている。一般的には②とされていますが、養蚕・製糸・織物の発展を考えれば①と考えられます。養蚕の仕事は大変でした。絹産業の歴史には女性の活躍、努力があったのです。そして現在、「かかあ天下」を取り巻く環境はどうなっているのでしょうか。国内男女平等指数、給与格差などのデータから分析すると、群馬県の男女共同参画はまだ進んでいるとは言えません。固定的な性別役割分担意識を見直すこと、ワークライフバランスをしっかりと保つことが必要です。(参加者：44人)

【第3回】11/22(土)

「これからの育児と介護」

講師：樋口恵子さん(東京家政大学 女性未来研究所所長)



1930年に4.72だった日本の出生率は、1960年には2になるなど、わずか1世代の間に子どもの生まれる数が半数以下になりました。その結果、子どもの多くは長男・長女となり、結婚しない男女も増えて、50歳で未婚の男性は5人に1人、女性は9人に1人に上っています。

日本人の平均寿命は、男性が80.2歳、女性が86.6歳で、総合で世界一の長寿国です。長寿は、平和な暮らしや生活の豊かさの結果もたらされるため大変喜ばしいことですが、老後の生活には介護が必要です。少子化に伴う「子なし、孫なし、兄弟なし」の「ファミレス社会」では、家族だけで介護することは難しいため、地域で支えていくことが重要になります。

私たちは、生物としての自然的存在のほか社会的な存在でもあるため、時代の波から逃れて生きていくことはできません。時代の大きな転換点にいることを自覚し、社会の「作り手」「担い手」「変え手」として、何らかの役割を果たしていくことが大切です。(参加者：85人)



私たちは、生物としての自然的存在のほか社会的な存在でもあるため、時代の波から逃れて生きていくことはできません。時代の大きな転換点にいることを自覚し、社会の「作り手」「担い手」「変え手」として、何らかの役割を果たしていくことが大切です。(参加者：85人)

【第4回】12/6(土)

「防災とジェンダー～男女共同参画の視点から防災を考える」

講師：齋藤正子さん(東京家政大学 看護学部講師)

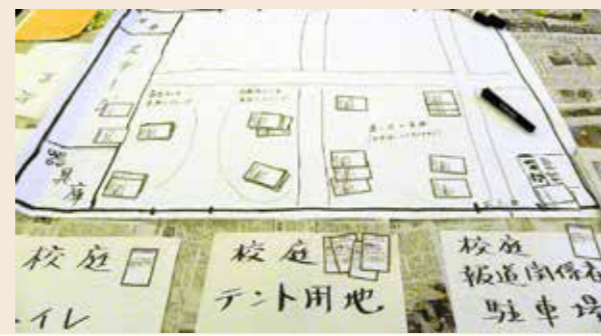


災害(震災)関連死とは災害による直接的な死ではなく、それがきっかけとなって健康状態が悪くなり亡くなることをいいます。その原因の1つに避難所で生活することによる身体的・精神的な過労によるものがあります。災害時には高齢者・障害者・外国人・妊産婦などの災害時要支援者への対応が必要です。避難所運営ゲーム「HUG(ハグ)」をしながら、避難所を立ち上げるのにどのような視点が大事なのか、何が必要なのか考えましょう。(参加者：30人)

災害(震災)関連死とは災害による直接的な死ではなく、それがきっかけとなって健康状態が悪くなり亡くなることをいいます。その原因の1つに避難所で生活することによる身体的・精神的な過労によるものがあります。災害時には高齢者・障害者・外国人・妊産婦などの災害時要支援者への対応が必要です。避難所運営ゲーム「HUG(ハグ)」をしながら、避難所を立ち上げるのにどのような視点が大事なのか、何が必要なのか考えましょう。(参加者：30人)



※「HUG」(Hinanzyo U nei Game ひなんじょうんえいげーむ)は、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。参加者は、通路やトイレの場所、避難者の配置など、ジェンダーの視点を踏まえながら模擬避難所を立ち上げていきました。



HUG(ハグ)ゲーム

女性の起業・創業支援事業 報告

ぐんま男女共同参画センターでは、初めて起業支援に関する事業を実施しました。今回は第1弾として実施した「女性のための起業入門セミナー」の様子をご紹介します。

「女性のための起業入門セミナー」を開催

11/1(土)・8(土)・22(土)・29(土)

起業を目指す女性を支援するため、起業のための基礎的知識と女性ならではの事業展開を学ぶセミナーを開催しました。起業という「夢」を叶えるため参加した女性たちは、まず、「私のキャリアシート」を作成し、自分の強みを分析、「私らしい起業」について探っていきました。商品、価格、販売経路や広告・宣伝について学んだ後は、マーケティングプランを作成。最終日には、会計知識の必要性、決算書、損益分岐点、資金繰りなどについて学び、それぞれのビジネスプランを作り上げました。

毎回行われたグループディスカッションでは、活発な話し合いが行われ、セミナー終了後はお互いの連絡先を交換していました。再会を約束して解散となりましたが、短期間でネットワークを作り上げていく女性たちの力は本当に素晴らしいと思いました。(参加者：延べ91人)



県内の女性起業家3人を招いたパネルディスカッション



グループワーク

セミナー風景

- アンケートから
 - 事業について、いかに真剣に考えていなかったか自覚しました。当面の問題点がわかったので、対処したいと思います。
 - 一から十まで教えていただいた気がします。勉強になったし、楽しかったです。
 - いろいろな方と知り合うことができて楽しかったです。
 - 目の前が開けた感じがします。問題点も多いですが頑張りたいと思います。
 - 細やかな知識をしっかりと入れることができました。



受講者のみなさん

協働事業報告

(群馬県地域密着型子どもの救急啓発事業)

「乳幼児の救急」～小児科医師が語る、乳幼児の救急対処法～を開催

11月23日(日)に、乳幼児の救急時の対処方法について学ぶ講習会を、玉村町・和い輪いネットワーク(代表：高橋さゆりさん)と共催で開催しました。

会場となった県庁会議室には、子育て中のママ・パパやご家族が詰めかけ、乳幼児

の救急時の発熱・下痢などの症状別対処法や医療機関への受診判断のポイントなどについて、熱心に聞き入っていました。

講師：山田佳之さん(県立小児医療センター医師) 参加者：73人(うち男性23人)



まめ知識 出生率のおはなし

昨年「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、人口減少を克服して2060年に人口を1億人程度とし、経済成長力を確保するという「長期ビジョン」が示されました。

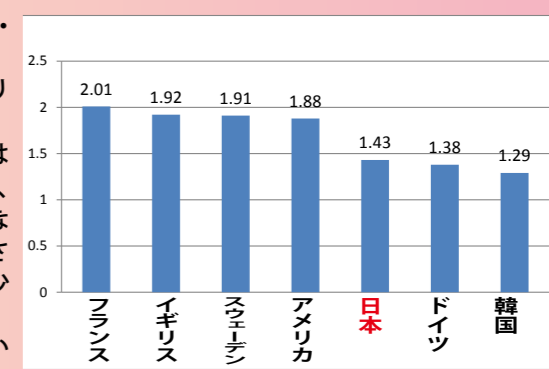
この関係で、このところ『合計特殊出生率』がクローズアップされています。これは女性が生涯に産む子どもの数で、2013年は1.43でした。

この合計特殊出生率、都道府県別に見ると、ばらつきがあります。東京が最低で1.13、沖縄が最高で1.94、では群馬は・・・。全国平均を少し下回る

1.41です。東京圏は総じて低く、九州・沖縄が比較的高い水準です。次に諸外国と比較すると右図のとおりとなっています。

国内における夫婦の理想の子ども数は2.42人です(2010年)。若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える切れ目のない支援やワークライフバランスが確保され、結果として出生率が向上し人口減少に歯止めがかかる社会が望まれます。ちなみに、夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高いというデータもあります。

合計特殊出生率の国際比較



(日本は2013年値、韓国は2011年値、その他は2012年値)

※データは全て「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン<参考資料集>」から引用